

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 02 05	中期総合計画主要施策番号		2-04		担当課	部・課	林務部 信州の木振興課	
事業名		森林整備に直結する作業道整備事業				内線		3247		
						E-mail		ringyo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	既存の林道を幹線として効果的に活用しつつ、間伐材の搬出コストを低減するためにも、直接、整備対象森林へアプローチするための作業道等を整備することにより、間伐などの森林整備及び間伐材の利活用の促進を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 森林整備面積は、ほぼ計画どおり実施されているが、林業・木材産業の低迷等により、間伐材等を搬出して利用する割合は2割程度にとどまっている。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 森林整備の効率的な実施や間伐材を低コストで効率よく搬出するためには、作業道等の開設が効果的であるが多大な経費がかかる。								
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 間伐等の森林整備を効率的に進めるため、また、搬出コストを縮減し間伐材の利用を促進するために、市町村や森林組合等が実施する作業道等の開設を支援する必要がある。								
	事業内容	・作業道整備(補助率:【国】5/10【市町村等】5/10)								
実施期間	H17 ~		根拠法令等	森林・林業・木材産業づくり交付金実施要綱、森林づくり指針						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況			評価	
	・森林整備等の促進のため作業道等を整備する。 (平成27年度開設延長目標1,027km (森林づくり指針の整備目標のうち自力施工分等を除く延長 概ね30km/年))		・平成27年度の目標達成に向け作業道整備を着実に進める。(平成20年度の森林づくり指針の計画目標813km)			・平成20年度末の実績累計延長は832km(102%)となり、目標達成に向け順調に進んだ。			a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	42,508	65,376	71,800	国庫・県庫	国庫		
	決 算 額 (B)		千円	56,596	78,551		実施方法	補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円				歳出節別内訳等	補助金:78,551		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.2	0.2	0.2	(単位:千円)	(H21への繰越額:5,376)		
	概算人件費 (C)		千円	1,428	1,430	1,430				
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	58,024	79,981	73,230					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	累積整備延長		km	817	832	862	完了路線数31路線			
	年間整備延長		km	44	16	29	(内訳) 作業道:21路線			
	実施路線数		路線	59	31	23	作業路:10路線			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・森林整備の実施が急がれている中で、森林へのアプローチや、間伐材の搬出等に重要な作業道等への要望は高い。 ・林業再生を図っていくため、搬出間伐のコスト削減につながる基盤整備の重要性が高まっている。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・市町村、森林組合等の事業主体との情報交換を密にし、森林整備等により効果的な路線の開設を目指す必要がある。 ・地球温暖化防止対策で、森林吸収源としての森林を緊急に整備する必要性が高い期間(京都議定書の第1約束期間のH24まで)中であり、基盤整備としての作業道の整備の推進が重要である。							